



# 豊玉二中だより

令和元年度 第10号  
発行日 2月3日(月)  
練馬区立豊玉第二中学校  
校長 神山 信次郎

## ONE TEAM

副校長 木原賢三

令和2年が明け、早1か月余りが過ぎますが、今年度もいよいよ残り1か月余りとなりました。1年の成果と課題をまとめる時期となり、学校では子どもたちにどんな力を身に付けることができたか、また、来年度に向けてどんなことに力を尽くしていけばよいのか、振り返る時期となりました。12月には学校評価を保護者・地域の方にお問い合わせし、「社会に開かれた学校づくり」をめざして、学校・保護者・地域の方々の願いを受けて、子どもたちの健全育成に向けて、来年度、教育活動をどのようにすすめていけばよいか、話し合いをすすめているところです。

さて、ある日の授業において、「練馬区長に請願をして地域をよくしよう」という課題が出され、生徒が授業に取り組んでいました。まずは、自分たちが住んでいる地域の課題について考え、どのようにすれば課題が解決できるかを考えました。始めは、ショッピングセンターや遊園地があったら楽しいと様々な意見が出されていましたが、ある生徒がただ施設を作るだけでは、地域が良くなることにつながらないのではという意見をきっかけにして、地域が良くなるということはどういうことなのか、生徒は真剣に考え始めました。これまでは、教師が地方自治について説明し、生徒は1時間黒板を写すという授業スタイルが多くありました。しかし、この授業では教師は生徒の学ぶ様子をみとり、時にアドバイスをしながら、生徒に「よりよい社会とは」を友人と協働して考えさせようとしていました。チャイムが鳴り終わっても、生徒たちは周りの友人たちと意見を交わしながら学ぶ様子が見られました。今学校では、生徒が自ら課題を見つけ、そして学び、考え、判断して活動するような課題解決型の授業改善を進めています。

これまでの授業では、教師が一方的に知識や技能を生徒に伝え、子どもたちが学ぶスタイルでした。しかし、令和3年に実施される新学習指導要領では、「主体的で、対話的な深い学び」の学習が目指されます。それは、これからの社会において、友達と協働し、自ら問いを立ててその解決を目指したり、新しい価値を創造したりすることができる資質や能力の育成が図られていくことが求められているからです。一方で、2018年のPISA調査において、日本の子どもたちの読解力が低下しているという結果が出ました。スマートフォンの普及により、子どもたちのコミュニケーションが、仲間同士の短文でのやりとりが中心となり、長い文章をきちんと読み、分かりやすい文章を書く機会が減っていることが原因であると考えられます。

本校では、全ての教育活動を通して、「質の高い教育の実現」を目指すとともに、「自分とはどのような人間なのか」「自分らしく生きるとはどのような生き方なのか」について考え、『自分探し』に取り組み、自らの生き方を自己決定できる生徒の育成を目指しています。教育とは、様々な養分を吸収してゆっくり育つ木のようなものです。これからは、生徒たちの養分となるような教育とは何かを、保護者・地域の方とともに考えていくことが必要となってきます。全生徒、教職員そして、保護者・地域の方々すべての人が『ONE TEAM』となり「オール豊二」の力を結集して前に進んでいくことが大切です。今年度も残りわずかとなりましたが、本校の教育活動にご理解とご協力のほどよろしくお祈りします。